

第16回 原子力に係る安全性・信頼性向上委員会 議事概要

- 1 開催日時 2025年5月9日(金) 13:30~15:45
- 2 開催方法 Web開催
- 3 出席者 野口委員長、出光委員、高田委員、天日委員、藤本委員、松田委員
(幹事) 原子力監査室長
- 4 議事概要

原子力の安全性・信頼性向上に係る当社の取組み、核セキュリティ及び原子力防災に係る主な取組み並びに川内原子力発電所2号機 第7回安全性向上評価届出内容について、様々な視点から検討いただいた。安全の方針に関する主な意見等は以下のとおり。

(1) 原子力の安全性・信頼性向上に係る今後の主な取組みについて(資料1-1、1-2)

- ・玄海原子力発電所のリラッキングに伴う発熱については、既存設備で冷却が担保されているということであるが、裕度がどの程度担保されているか確認することを推奨する。
- ・キャスクを40基貯蔵した状態の乾式貯蔵施設内で空気の自然対流が止まったときにキャスクの健全性がどの程度の期間保てるのか、限界となる日数を評価しておくことを推奨する。

(2) 当社の核セキュリティに係る主な取組みについて(資料2)

- ・潜在的な内部脅威者を洗い出すための個人の信頼性確認について、近年はプライバシーの問題もあるが、重要なことなので、引き続き、日常的な上司と部下の対話において個人の問題把握に努めて欲しい。
- ・デジタル技術を活用した人定確認を検討することは良いことだが、警備員から人定確認を受けることによる抑止効果もあると考えている。デジタル化にあたっては、人とデジタル技術の関係性を意識した最適な改善対策の検討を進めて欲しい。

- ・出入管理建屋を増設して入口を分散させることで、一般的なセキュリティの問題として、予期しないインシデントに伴うリスクが高くなることから、リスクを回避する方策も考慮しながら、適切な改善対策の検討を進めて欲しい。

(3) 当社の原子力防災に係る主な取組みについて（資料3）

- ・訓練を俯瞰的に見ながら、地震や悪天候等の様々な事象も想定し、今の対応で問題ないか議論することで次の訓練に繋げて欲しい。
- ・自治体からは、必要に応じ様々な情報を要求されることが想定される。その時に慌てることがないように、訓練の中でも「こういう時は、この情報が必要になる」といった準備はしておいたほうが良い。今までと違ったことを積み重ねることで、九州電力としての知見を広め、深めることが必要。

(4) 川内2号機 第7回安全性向上評価の届出骨子について

- ・積極的に安全性向上に向けた取組みを行っているにもかかわらず、考察での表現の仕方でそう見られない恐れがある記載となっている箇所がある。
九州電力の安全に対する姿勢を正しく外部の方々に認めて頂くため、考察の表現方法を工夫して誤解されないように留意する必要がある。

以 上